

【様式】 令和 4 年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

学校名 ( 桑名工業高等学校 )

(1) 目指す学校像		グラデュエーション・ポリシー ～身につける力～ ○ 「地域と歩むものづくり」をもとに、人間性豊かな専門的職業人を目指し、積極的に行動できる人材を育成する。
(2)	育みたい 児童生徒像	アドミッション・ポリシー ～求める生徒像～ ○ 「挨拶・身だしなみ・きれいな学校」(桑名工業三原則)が徹底され、真摯に授業に取り組み、部活動、生徒会活動、資格検定試験などに生き活きと取り組める生徒 ○ 「地域と歩むものづくり」を目標に、本校独自のキャリア教育を通じ、自ら考え積極的に行動できる生徒 ○ 人間性豊かな専門的職業人を目指す生徒
	ありたい 教職員像	○ デュアルシステム通じ、教科指導とキャリア教育の充実に向けて、意欲的に取り組む教職員。 ○ 失敗を恐れず常に前向きにチャレンジする姿勢を保ち続けられる教職員。 ○ 生徒が興味・関心を持てる授業を展開するよう、常に研究を怠らない教職員。 ○ 資格取得指導・部活動の指導や教育相談にも積極的に取り組む教職員。 ○ 情報共有を行ない、学校を目指す方向を職員全体が知り、同じベクトルで向かえること。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 進路実現、充実した学校生活 <保護者> 生徒の進路実現、基本的生活習慣の確立、人間性豊かな人格の形成 <地域、地元企業等> 地域で活躍できる社会性を身につけた、人間性豊かな職業人の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <保護者、中学校関係者> 情報共有、連携、協働 <地域、地元企業等> 地域で活躍できる人材育成	連携する相手への要望・期待 <保護者、中学校関係者> 本校教育活動への理解、協力、情報共有 <地域、地元企業等> 本校教育活動への理解、協力、情報共有、指導
(3) 前年度の学校関係者評価等	社会がこれまでの安定期から変化の時代が変わった。このことにより人材育成について ○ 「自ら学ぶ努力」のできる人材を育成する。 ○ IT社会の中「正しい情報を見極める力」と行動力をもった生徒の人材の育成。 ○ 少子高齢化の中で若い世代にもものづくりへの興味を持たせる取組み。 ○ 学校で学習している内容をもっとアピールすべき。成果発表会の公開 ○ アジアの中でもものづくりを継承できる人材が求められています。 ○ 海外インターンシップや他校等の交流など様々な経験を生徒に積ませてほしい。	
(4) 現状と課題	教育活動	桑名工業三原則、コース選択のためのガイダンスや個人面談の実施、キャリア教育、進路シミュレーションなどきめ細かい指導は、問題行動の減少や進路実現に繋がっている。 ○ 成果発表会での地元中学へのPRの発信 ○ コース選択において、興味関心や将来の進路より友人関係を優先させる生徒がいる。 ○ キャリア探究コースの発展に努める。 ○ 保護者と連携した遅刻指導の取組を充実させ、基本的生活習慣の確立を目指す。 ○ より高度な資格へ挑戦できる指導体制の充実とクラブ活動の活性化に取り組む。
	学校運営等	○ 地域と歩むものづくりに基づき、地域の思いに応じた情報発信を積極的に行い、地域から愛され信頼される学校づくりを目指す。 ○ 工作機械が進化し、機械図面などこれまでの二次元から三次元への対応が必要。 ○ 実習・インターンシップ・学校行事など、生徒が主体的に計画、実行できるように生徒自身が行動できるよう指導する。 ○ 本校の教育活動の先進的取組として、Wi-Fiを整備し、オンライン学習に対応できるよう、職員研修を充実させ、タブレット学習を充実させる必要がある。 ○ 授業でのPCの活用を多く取り入れ、総勤務時間の縮減に取り組む。

3 中長期的な重点目標・カリキュラム・ポリシー ～教育方針～

教育活動	1. 基礎・基本を大切に魅力ある授業づくりと、桑名工業三原則の堅持に努める。 2. キャリア教育を推進しデュアルシステムを通じ、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、工業への見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。 3. ものづくりを通じ地域社会での発展を担う職業人として、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できるよう学習活動の充実を図る。 4. 基礎学力の定着と向上に努め、工業高校での指導者育成に努める 5. グローバル人材育成のため、海外インターンシップに積極的に取り組む。
学校運営等	1. 「情報共有と連携」をキーワードに、チーム桑名工業で取り組む組織づくりを進める。 2. 生徒と真摯に向き合い、コンプライアンスの遵守に努め、指導に専念できる明るい環境づくりに取り組みます。 3. Wi-Fiの整備を早急に取り組む、Google for education のクラウド学習の充実を図り、総勤務時間の縮減に努める。

#### 4 本年度の行動計画と評価指標

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力ある授業作り・三原則の堅持	<p>&lt;1学年&gt; 基礎学力の定着を一番の目標とし、教材研究や指導方法を工夫し、教員間で情報交換を行わない授業力の向上を図ります。 【活動指標】 授業満足度調査のアンケートをとる 【成果指標】 満足度80%以上</p> <p>&lt;コース選択&gt; 生徒が進路実現に合致したコース選択ができるように支援します。 【活動指標】 コースガイダンス(2回)、系ガイダンス、実習見学会(2回)コース選択面談(3回)を実施します。 【成果指標】 生徒のコース選択満足度100%。</p>	<p>&lt;1学年&gt; ICTを積極的に活用するなどして、生徒1人1人の基礎学力の向上をはかった。 教科担当者と連携して、補習や学び直しをおこなった。 &lt;コース選択&gt; コースガイダンス、実習見学会、コース選択面談を実施した。面談前にアンケートをとり、事前に生徒の思いを知ることで、話し合いをスムーズに行えるよう工夫を行った。</p>	
	<p>&lt;2学年&gt; 教員間のコミュニケーションの充実を図り、スムーズな組織運営ができるように努める。 毎学期終わりに授業アンケートを実施し、満足度が目標を超えられるように教科担当者に結果をフィードバックする。 【活動指標】 授業満足度調査のアンケート 【成果指標】 満足度80%以上</p>	<p>学年会議はできる限り少なくし、朝の打ち合わせ等で情報交換を行うことができ、スムーズに組織運営することができた。 生徒は授業、学校生活にも満足度は高い。</p>	
	<p>&lt;3学年&gt; 満足のできる進路実現に向け、基礎学力と資格取得を奨励します。 【活動指標】 有用な資格取得を奨励する 【成果指標】 履歴書の資格欄に資格が書ける生徒の割合が100%</p>	<p>おおむね達成できた。 資格未取得の生徒は0%</p>	
	<p>&lt;教務部&gt; 公開授業、研究授業を実施し、授業振り返りシートの活用を促進し、教員の授業スキルアップに努めます。 規律ある授業展開を促進し、どの生徒も学びやすい雰囲気づくりを目指します。</p> <p>&lt;図書&gt; 利用者への資料提供(書籍購入、相互貸借)、「調べもの、探しもの」などの情報提供の補助といった最も基本的な図書館のレファレンス業務の推進、基礎・基本分野や専門分野の書籍の充実、調べ学習に対応できる図書館として配架、蔵書冊数の充実を図ります。 タブレット・オンライン学習に取り組むにあたって、生徒や教職員に向けた情報資源の収集・活用方法の指導及び提案を行っていきます。 図書館を利用した授業や調べ学習、それ以外の形での授業利用に対する、資料充実及び図書館司書の支援について一層励んでいきます。 生徒が司書室へ入室する際に桑工三原則を徹底させ、基本的な生活習慣の確立を目指します。</p>	<p>&lt;教務部&gt; 公開授業、研究授業を実施しました。ICTの活用を含めて授業スキルアップの意見交換をしました。規律ある授業展開を意識し、教員相互に連携に努めました。新学習指導要領の実施にあたり、新しい評価基準の実施と見直しに努めました。</p> <p>&lt;図書&gt; 特にタブレットを利用した図書館の授業利用に際して、書籍購入、相互貸借、新聞、インターネットなど情報源を多方面から提供し、レファレンス業務をしっかりと行いました。 今年度のデータは下記のとおりでした。 受入蔵書 318冊(購入 310冊、寄贈 8冊) 貸出統計 824冊(生徒 465冊、教員 359冊) 相互貸借 8件(貸出29冊 借受53冊) リクエストによる書籍購入 59件 レファレンス相談件数 18件 授業による図書館利用件数 21件 部活による図書館利用件数 2件 (2023/1/10現在)</p>	
	<p>&lt;進路指導&gt; 【活動指標】 魅力ある授業づくりのため、教材、指導方法について教員間で情報交換を行い授業力の向上を図り、生徒が希望する進路実現のための学力の充実を図ります。 【成果指標】 桑名工業三原則のあいさつ、身だしなみ、きれいな学校を堅持し、社会で大切なことであることを理解させます。</p>	<p>&lt;進路指導&gt; 社会人としてのマナーや基本的な生活習慣を学校全体で共有して指導することで、良い成果を出すことができている。また基礎基本を中心とした学力育成と専門的な技術・技能、危険防止の姿勢等を重視した授業により、進路先となる製造業を中心とした企業の幅広いニーズに答えている。近年、本校でも進学率が微増傾向にあり、進学に対応するカリキュラム、指導体制づくりが望まれる。</p>	

<生徒指導>朝の登校指導において挨拶や服装指導を行い、遅刻者には理由の確認と根本的な原因の改善を促す。保護者への連絡と協力をお願いする。服装については全職員で指導にあたる。日頃の学級活動や清掃指導を通じて学習するための環境づくりを徹底・推進する指導体制をつくる。  
**【活動指標】**遅刻統計を毎月公表する。  
**【成果指標】**体調不良以外の遅刻者数を減少させる

<生徒指導>基本的な生活習慣を徹底させるため、登校指導や挨拶運動での声掛けを通して、身だしなみや遅刻指導に力を注いでいるが、昨年度遅刻数448件、今年度(11月末)350件と多い状況。新型コロナ以降多い水準が続いている。理由1位は寝坊、2位は体調不良。寝坊遅刻は繰返され10数名で半数近くの遅刻回数を占めている。体調不良を理由にしている生徒に対しては感染症の面からも指導ができない現状である。

<保健安全部>  
 ・保健室利用の際に挨拶や身だしなみの指導を行ない、生徒一人ひとりの個性を尊重し、親切でこまやかな対応を心がけます。  
 ・清潔な保健室の維持に努め、生徒にも職員にも快適な室内環境を整備し、過ごしやすく働きやすい環境づくりを目指します。  
**【活動指標】**  
 ・生徒をていねいに観察し、心身の早期回復を目指して適切な処置・対応をおこないます。  
 ・本校職員の健康維持のため必要な情報を提供し適切な支援を行ないます。

<保健安全部>  
 ・挨拶や身だしなみの指導は目標通り実施できたと思います。  
 ・清潔な保健室、快適な室内環境の整備および過ごしやすく働きやすい環境づくりについても目標を達成できたと思います。  
**【活動指標】**  
 ・生徒の心身の早期回復を目指した適切な処置、対応についても概ね目標を達成できたと思います。  
 ・本校職員のための情報提供と適切な支援についてもほぼ目標を達成できたと思います。

<電気系>  
 (1) 授業の教材、指導法において教員間で情報交換および相互のスキルアップをはかり職員の授業力向上を目指します。  
 (2) 資格取得指導においても情報共有をはかり職員の指導力向上を目指します。  
 (3) 生徒に対し基礎基本を中心とした学習指導に力を入れるとともに、課題解決能力の育成を目指します。自立する18歳を目標に、将来困ったときに主体的に解決できるような考え方ができるように取り組みます。  
 (4) 生徒、職員が一丸となって「きれいな学校づくり」をさらに推し進め、電気実習棟の整理整頓をすすめます。準備、あと片付け等の基本姿勢とともに、「あいさつや身だしなみ」など基本行動の習慣化に取り組みます。  
**【活動指標】**生徒の授業に対する達成感(満足度)を定期的に検証し、生徒全員が授業に対する達成感(満足度)を得られるよう務めます。  
 電気系実習棟の実習室および廊下における美化を徹底します。  
**【成果指標】**年度末における生徒の授業に対する満足度が80%以上になることを目指します。  
 電気系実習棟の実習室および廊下において「ちり・ごみ」がなくなるときれいな状況となるよう徹底します。

<電気系>  
 生徒達のゴールは、基本的な手法や考え方を身に付け、探究ができるようになること。仮説を立ててやってみてダメだったら修正をする取組みを図ることをスタートした。目指す項目に関して実践し、共有を図ることができた。具体的には、  
 (1) 実習、授業の進展に合せた生徒の理解度の共有。  
 (2) 放課後における資格取得に向けた学習会の教員間の共有。  
 (3) 実習、授業において理解した生徒がそうで無い生徒に教えることができる展開となる取組みを実施。それにより「より主体的な学び」への展開を図ることができた。  
 (4) 実習、授業をとおして専門教科への興味をもつことと、将来を担う人材育成のための国家資格取得を勧め、多くのチャレンジができ次につなぐことができた。これまでに挑戦がなかった資格取得にも取り組んだ。  
 (5) きれいな実習棟・各実習部屋となるように取組み、作業に伴う安全を意識させる取組みを実施。  
 (6) 評価基準を作成しベクトル合わせを行い、基準の統一と再確認を実施した。また、新たなテーマに生徒と教員で取り組んだ。  
 実習棟・各実習部屋は整頓された状況にあり、授業展開と資格取得合格率に関しても結果を残しており、年間を通して目標を達成することができたと考える。

<機械系>  
 ①: 生徒たちが深い学びを体感できる授業を実践し、手法や技法について教員間で情報を共有し、機械系教員全体の知識や技術の向上に努めます  
 ②: 桑名工業3原則および安全作業を徹底することで、工業そのものの見方や・考え方を涵養し、より実践的な学習活動を行ないます。  
**【活動指標】**  
 ①: ICT等を積極的に活用し、実習内容や実際に就職してからのイメージが持てる工夫を凝らした授業を展開します  
 ②: 実習前点呼や作業前の安全指導の徹底し、教員においても実習室の環境整備・整理・整頓に努めます。  
**【成果指標】**  
 ①: 授業や実習でのICT活用率と生徒たちの授業満足度が高水準(80%以上)を保つことを目指します  
 ②: 作業中の重大事故・災害ゼロを目指し、「安全で学びやすい」教育環境の実現を目指します。

<機械系>  
 (1) 基礎・基本を大切に、幅広い知識を学習できる授業展開に心がけた。生徒個人の能力を伸ばすために、習熟度に合わせた発展問題の設定や教員間での情報共有など、より効果的な学習活動を進めることができた。GoogleClassroom等ICTコンテンツを活用し、視覚的に教材を示すことで生徒の理解度の向上を図ることができた。  
 (2) 常に安全作業に重点を置き、危険因子の未然排除、安全作業の徹底や実習室の環境整備・整理・整頓・清掃により、重大事故・災害ゼロを確保することができた。また、溶接作業において生徒・教員が防塵マスクの着用することで、有害な金属ヒュームへの対応ができた。

魅力ある授業作り・三原則の堅持

<p>&lt;1学年&gt; ICTを活用したクラス運営と授業の展開、学年校務の効率化を実施  <b>【活動指標】</b> G-suite for Educationを利用  <b>【成果指標】</b> クラスルーム参加率100%</p>	<p>生徒全員がiPadを持っており、クラス運営ではクラスルームでの連絡や資料配付、Googleフォームによるアンケートを行っている。クラスルームの参加率は100%である。</p>
<p>&lt;2学年&gt; 生徒が主体的・対話的で深い学びの中で、満足のいく進路実現ができるように情報発信等を通して支援します。  <b>【活動指標】</b> 進路シミュレーション活動、インターンシップ実習体験、進路ガイダンス、3年生進路体験報告会<b>【成果指標】</b> 満足度100%</p>	<p>進路シミュレーション活動、インターンシップ実習体験、進路ガイダンス、3年生進路体験報告会の活動で生徒達は、卒業後の進路についてしっかり考えることができるようになってきている</p>
<p>&lt;3学年&gt; 進路選択に必要な知識を身につけるため、企業・学校研究に努め、職業理解を深める。  <b>【活動指標】</b> 進路シミュレーションを通じて生徒・保護者の希望に沿った進路決定を実現する。  <b>【成果指標】</b> 進路決定に伴う生徒・保護者との面談を通じて希望内の進路決定率100%</p>	<p>年内の進路決定率98.7%となった。          保護者会だけでなく電話や面談を増やし、本人・家族の要望をできるだけ実現させられるように取り組んだ。</p>
<p>&lt;教務部&gt;          授業時間の確保や、キャリア教育に関するより深い探究ができるカリキュラムを編成します。  <b>&lt;教務部：図書&gt;</b>          生徒の進路選択へ判断材料となる幅広い分野の資料収集、及び職業選択やインターンシップの参考となる資料の購入、地元企業の持つ技術力に関連する専門資料の充実を進めています。</p>	<p>&lt;教務部&gt;          授業時間の確保に努め、各教科と連携してカリキュラム編成の見直しに努めています。  <b>&lt;図書&gt;</b>          生徒からのリクエストに応えつつ、専門の先生方の意見を参考にし、各業界に関する資料を購入したり、古い資料の情報更新を行うことができました。また、就職試験、資格取得及び面接に関する資料の充実を図りました。</p>
<p>&lt;情報&gt;          全教員のICT機器の活用率の向上、及び研修の充実、さらなる環境の充実化を図るために整備改善に努める。          オンライン教育等を支援し、Society5.0に向けた生徒の情報活用能力や主体性を持った考え方を育てる。</p>	<p>2ヶ月に1度研修を実施し、教員からの質問や技能の向上に向けてスキルアップを図った。          iPadを持つ学年には積極的に活用を促し、持たない学年にもICT機器を活用することで理解力向上やリテラシーの習得を図ることができた。</p>
<p>&lt;キャリア探究部&gt;          ・1年次は、桑名工業高校成果発表会やポスターセッションを通して、地元や周辺企業の特徴等を知ることや将来の進路選択について考えさせます。          ・2年次生は、特にインターンシップを通して生徒自らが適正である職業選択について考えるための大きな機会します。また、デュアルシステム専攻生徒に関しては、企業実習等を通して職業観の適正に加えて、知識技術や人間力の向上に努めさせます。          ・3年次は、これまで実施してきたインターンシップ・企業実習等を通して、進路実現だけでなく生徒自身が必要な力や、社会人としての心構えを定着させます。  <b>【活動指標】</b>          インターンシップをより充実させるものとするため、事前指導をより徹底し、生徒たちにインターンシップの意義を十分に理解させ、その意欲を喚起させます。体験する希望職種に対応できる企業の開拓、ならびに受け入れ態勢の調査のために、企業訪問や担当者との面談を複数回実施します。体験学習を通して、地元やその周辺の産業や特色を知り、興味関心を持たせます。デュアルシステムにおいては、更に充実させるべく新たな企業の開拓に努め、校内学習や学校行事の内容をより充実させます。  <b>【成果指標】</b>          インターンシップは地域産業やその特色を知り、働くことについて考える最初の一步となることから、指導の充実とアンケートによる理解度・満足度の高い数値を維持し、その結果を後の進路指導に活かします。インターンシップやデュアルシステムは成果発表会やポスターセッションを通して、思考力や表現力などを向上させることに努め、人としての成長や正しい職業観を育成します。また、企業アンケートについても、満足度を高い水準で維持するために、その結果を生徒にフィードバックし、自身に必要な知識等に気付き、それが定着できるようにします。</p>	<p>&lt;キャリア探究部&gt;          ・今年度は例年行なっている成果発表会やポスターセッション、インターンシップや進路セミナーに加えて、桑名商工会議所主催による「合同進路説明会」を開催したことにより、地元企業の魅力や特徴などを1社でも多く知ることができ、進路実現に向けての実感を持つ機会となった          ・デュアルシステム専攻生徒については、勤労観や人間力への意識付けとして、オンラインによる人材育成研修を授業で導入したことにより、企業実習への向き合い方や実習内容に対する捉え方が大きく変化し、より企業実習が充実したものとなった。また、STEAMプログラム(教科横断の課題解決型学習)を実施したことにより、生徒の論理的思考力、協働性等の資質や能力の向上に努めることができた          ・インターンシップや合同進路説明会の事前指導において、特に担任団とのwebも用いての情報共有を密にしたことにより、指導の内容や意義を生徒たちにより深く落とし込むことができ、インターンシップでの取組みや合同進路説明会の内容が充実したものとなった          ・企業実習における新規企業開拓だけでなく、新カリキュラムでの2年生進学専攻生徒の授業においても、企業や大学、NPO法人との連携を結ぶことができ授業内容の充実につなげることができた          ・成果発表会におけるインターンシップや部活動等の発表について、担当教員の創意工夫のおかげもあり、生徒たちの表現力が年々向上しているのが理解できる。また、デュアルシステム専攻生徒においては、成果発表会でのスライドやポスターセッションで作成するポスターを見える化したことにより、早い段階から構想等の準備ができたことで、内容の充実や表現力の向上につなげることができた</p>

<進路指導>

【活動指標】 キャリア教育を推進し正しい勤労観・職業観の育成を目指し、豊かな人間性を育み生涯の見通しをもって教育を実践します。また一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる態度を育成します。

【成果指標】

- ・3年生には就職試験および進学対策としての面接指導を複数回実施します。業者に委託した模擬面接指導を5月に校内での全職員対応の模擬面接指導を9月に実施します。
- ・2年生には12月からの「進路決定シミュレーション」の効果が認められるので、今後も早期から実施し、生徒が自主的に進路を決定する機会を与えます。
- ・1年生には入学後からコース選択の取組みにより、将来の進路実現を考えさせる機会を作ります。また、12月には職業適性検査を実施し個々の適正について学ぶ機会を設定します。

特別な支援が必要な生徒を早期に把握し、該当生徒に関係するすべての職員の協力と理解を得ながら、生徒自身が進路実現に必要なスキルや方策を身につけられるよう、個別の支援策を教育相談係と連携して行います。各学年で複数回の進路講話や職業理解ガイダンス等を実施します。

<進路指導>

活動指標の内容については、概ね計画通りに実施できた。

- ・3学年においては、就職試験直前の期間に3年振りに対面による面接指導を全職員で行った。就職では、全体の求人数はコロナ後を見据えた企業側の積極的な採用姿勢もあり、コロナ以前の求人数を超えたため、生徒の希望する進路実現が概ね叶ったように思われる。進学では、微増傾向の進学希望者に対して早くから学習習慣や意識づけ、進学対応のカリキュラム、指導体制づくりを計画する。
- ・2学年に対しては、学校行事としての進路ガイダンス、就職内定や合格した3年生の代表数名から体験談や今後の対策についての成果発表会で生の声を聞くことにより卒業後の就職・進学への意識向上につながった。
- ・1学年については、2年生からのコース選択を卒業後の進路もふまえて考えさせることや、職業適性検査の実施とその結果を職業選択の参考にしたり、学校行事としての進路ガイダンスで企業・学校の説明を聞くことで、進路選択の意識づけになったと考える。

<保健安全>

1. 保健室への入退室の際、社会人として望ましいマナーが身につくよう指導します。
2. 生徒との対話を積極的におこない、社会人としての資質が向上するよう指導します。
3. 感染症について正確な情報を発信し、感染予防のためのマスク着用、手指消毒、黙食等について社会人として必要な感染予防の意識を高めるよう指導します。
4. 健康チェックを毎日確実にを行い、自他の健康の維持について高い意識を持たせ、集団の安全・安心を守る意識を育みます。

【活動指標】

- ・服装や言葉使い、マナー・行動について正しくできるまで根気良く指導します。
- ・健康チェックの結果報告を毎日確認し最終的に100%の報告率を達成します。

<保健安全>

1. 入退室の際の望ましいマナーの指導は目標通りできたと思います。
2. 生徒との対話を通して社会人としての資質向上を目指す取り組みもほぼ達成できたと思います。
3. マスク着用、手指消毒、黙食等については一部生徒が何度指導をしても教員がいないと指導を無視し、この生徒たちの意識をいかに向上させるかが今後の課題です。
4. 健康チェックについても一部生徒が入力しない状況が日常化し、努力義務で指導するだけでは目標達成が困難であると感じました。

【活動指標】

- ・服装や言葉使い、マナー等の指導については概ね達成できたと思います。
- ・健康チェックの結果報告は90~95%程度を推移し、目標達成には至りませんでした。

<電気系>

(1) 主体的・対話的で深い学びが実現できる授業を目指して授業内容を工夫し、学年に応じた大人として調和のとれた育成を目ざし、生徒の生きる力を育て、地域で活躍し地域に貢献できる人材となることを目指します。生徒一人ひとりが思考力・判断力・表現力を養い、課題を解決する力を身につけるとともに自らの個性を生かし、かつ多様な生徒どうしが協働して課題の解決に生かせる授業環境を目指します。

(2) 生徒一人ひとりが思考力・判断力・表現力を養い、課題を解決する力を身につけるとともに自らの個性を生かし、かつ多様な生徒どうしが協働して課題の解決に生かすことができる授業環境を目指します。

(3) 資格試験・検定試験の指導を充実させて合格率の向上を目指します。

【活動指標】 クラス全員で受検する検定試験や国家資格試験において、合格率を高めるよう努めます。

【成果指標】 1年生のクラス全員で受検するものにおいて、計算技術検定3級90%以上、情報技術検定3級80%以上、危険物取扱者試験乙種第4類60%以上、第2種電気工事士60%以上の合格を目指します。さらに上位の資格取得への挑戦者を育成します。

<電気系>

(1) 実習、授業において理解した生徒がそうで無い生徒に教えることができる取り組みを実施。それにより「より主体的な学び」への展開を図ることができた。この取り組みにより協働して課題を解決する能力や、生徒個人の能力向上に発展させることに寄与すると考える。

(2) 授業環境をこちらからの一方通行にするのではなく、対話を活かす・理解できた人がそうでない人に教えるという取り組みから思考力・判断力・表現力に幅がで成長に繋がる。こちらから正解を求めずに生徒の考え方を聞き出してから修正し正しい方向に課題解決のベクトルを向けることを実施している。

(3) 放課後の資格講習においては複数の教員で対応し充実した指導体制を構築することができた。難易度の高い資格にも多くの生徒が挑戦し次の自分が学習する環境をつくることができた。合格率目標を記載したものは概ね近い数字の合格率(50%超)を出すことができた。自分の目指す方向を専門学校によるキャリア支援教育を受け、スタートアップすることができた。

キャリア教育	<p>&lt;機械系&gt;  ①：地域や社会に貢献できる人材を育成するため、生徒一人ひとりが共同・協同・協働するために必要なさまざまな力を身につける授業や機会を提供することを目指します  ②：資格や検定試験に向けて補習を充実させるだけでなく、特に合格率が伸び悩む試験の合格率向上を目指します  【活動指標】  ①：工場見学や校外活動、そして系独自の取り組みの中で、生徒たちが各取り組みにおいて達成感が得られるよう努めます  ②：各種資格取得や課題解決に向けて、教員間での情報共有や指導方法の改善を行うよう努めます  【成果指標】  ②：危険物乙種第4類 60%合格  情報技術検定3級 60%合格  計算技術検定3級 80%合格  各種3級技能士 100%合格  機械製図検定 50%合格  パソコン利用検定 70%合格</p>	<p>&lt;機械系&gt;  (1) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、集団として企業見学が実施できなかった。しかし、インターンシップを通じて、働くことの意義や将来の進路実現について、考える機会を得ることができた。特に地元企業の業種や特徴を生徒に紹介し、進路選択の幅を広げることができた。  資格取得に向けた放課後の補習を充実させることで、その成果があらわれてきている。</p>	
海外インターンシップ	<p>&lt;生徒指導&gt;挨拶・身だしなみ・きれいな学校を維持し、校内全域で学年・科を超えての指導をするために職員間の共通理解を図る。生徒自ら積極的にマナーや身だしなみに気配りできるよう、声掛けをしていく。社会人として必要なマナーを身につけさせる。</p> <p>&lt;国際教育&gt;生徒の国際的視野を広げるとともに、グローバルな舞台で活躍する人材を育成します。  【活動指標】 海外インターンシップや留学を行う生徒数を昨年度より1名増  【成果指標】 2名以上を目指す  &lt;図書&gt; 海外インターンシップに関連する書籍の充実を進めていきます。  &lt;全体&gt;積極的に海外インターンシップの情報を提供していく。ICTを利用し海外企業との高校との連携を試みる。  【活動指標】 経験者や工業教育研究会・三重県教育委員会等での情報を提供し、情報共有に努め効果的にPRする。企業と共同での短期海外インターンシップの開拓。  【成果指標】 毎年2名以上の参加を目標。</p>	<p>&lt;生徒指導&gt;桑名工業の三原則（挨拶・身だしなみ・きれいな学校）は、全体としては生徒に浸透しているといえる。なかでも挨拶はしっかり出来ている。身だしなみはネクタイや防寒着の着こなしを注意し、その場で直すという場面がまだまだある。</p> <p>&lt;国際教育&gt;  今年度も感染症の影響により海外インターンシップ・工場見学などの連携はできなかったが、ICTを使った意見交換など企業と連携できるよう努めたい。  &lt;図書&gt;  海外インターンシップに関連する書籍を就職コーナーに加えました。手にとって見る生徒が増えましたが、貸出には至りませんでした。</p>	
<p>&lt;保健安全&gt;  マスク着用、手指消毒、黙食等について意識の低い生徒を指導していくためには生徒の包括的な生活態度の改善が必要であり、このためには本校全職員で協力して取り組んでいかなければならない。健康チェックについても同様に全職員で個々の生徒に対応していく必要がある。</p>			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報共有と連携	<p>&lt;1 学年&gt; 学年団や関係部署との連携をはかり、日常のコミュニケーションの中で情報共有できるように心がけます。</p>	<p>普段から学年や教科担当者等と情報共有することで、公務を効率的に行えた。</p>	
	<p>&lt;2 学年&gt; 教職員間の情報共有を進めるため、教職員間のコミュニケーションを大切にします。</p>	<p>日頃より学年や教科と連絡を取り合っていたおかげで校務がスムーズに行えた。</p>	
	<p>&lt;3 学年&gt; 進路実現に向け保護者との連携を密に行います。関係部署との連携を図り、情報共有や教職員間のコミュニケーションを大切にします。面接指導の時間を大切に複数回に渡り関わってもらう。</p>	<p>おおむね達成することができた。 年内の進路決定者が98.7%と高く、学校全体で面接練習などを実施した成果が数値として出た。 残りの生徒に関しても連携を取りながら学校全体で考えていく。</p>	
	<p>&lt;電気系&gt; (1) 校内グループウェア、系会議を利用して情報共有・交換をすすめ、系内における問題点を全職員で共有し、協力して課題解決にあたります。 (2) 教員個々の特技と知識を生かし、これを皆で共有してスキルアップを目指します。そして経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。 【活動指標】電気系職員の授業や資格指導に協働して取組み、教員相互間の連携に対する達成感を高めるよう努め、生徒のゴールは「自立する18歳」を最高目標となるべく職員間連携して取り組みます。 【成果指標】日常の業務を通して「気付いたこと」を職員間で共有し改善に取り組み修正し生徒に還元評価する。</p>	<p>情報共有に関してはグループウェア、実習等での空き時間を利用し共有し、系会議で詳細について振り返る取組みを行なった。問題解決に繋がっている。 それぞれの教員の持つ知識を活かす取組みができ、生徒への知識・技術的な還元をすることができ教員間のスキルアップを果たすことができていると考える。 昨年度から「自立する18歳」を目標に教育活動を行ってきた。新たなテーマにも取り組みやこれまでの取り組みのブラッシュアップを図ることで見えた課題や修正すべき事項が発見することができた。継続して取り組んでいくことが大切と考える。</p>	
	<p>&lt;機械系&gt; ①：系会議等において、教員間の意見交換や情報共有を積極的に行うことができる「話しやすい」環境をつくり、課題解決に向けて「実践しやすい」よう協力・協同に努めます ②：各実習時における生徒の安全確保に努めます 【活動指標】 ①：機械系教員が授業も含めた新たな取り組みを行い、その情報や結果そして課題についても共有します ②：実習時間毎に生徒情報を共有し、工作機械の少しの不具合についても意見を交換することで、事故・災害・問題行動の未然防止を図ります。その際、ものづくりマイスターの先生方にも積極的に意見を求め、複数の目で安心安全の確保に努めます 【成果指標】 ①：系会議を含め情報共有や教員間連携の場を積極的に設け、今後の指導等の充実に繋がります ②：年間を通して重大事故や災害のゼロを目指します</p>	<p>&lt;機械系&gt; (1) 系会議を原則、学期に1回は行うようにし、さらに必要に応じて臨時の会議を行った。そしてデスクネットの回覧を使って情報の共有を積極的に行った。そのことで、生徒情報や実習設備の状態等の共有を図り、積極的な意見交換や指導方法を、横への繋がりとして共有し実践へと繋ぐことも出来た。  (2) 実習作業中の重大災害件数 ゼロ。特に実習前点呼において、安全指導だけでなく社会人になっていく上で必要な教養、そして今後の人生を考えるきっかけを与え、「聞く姿勢」を身につけさせた結果として重大災害ゼロに結びついたと考えている。さらには実際の作業現場での安全の取り組みを、情報共有として職員間に周知させることも上記の重大災害ゼロに結びついたと考えられる。</p>	

情報共有と連携	<p>&lt;保健安全&gt;  ・学校医と連携し生徒の健康状態や健康上の課題、学校環境について情報交換を行い生徒や保護者にフィードバックします。  【活動指標】  ・学期当初に学校生活への順応が心配される生徒についてはできる限り保護者を交えて情報共有をおこない、家庭との連携を密にして確かな支援が行えるよう取り組みます。  ・生徒の健康に対する意識を高め必要な情報を提供するため定期的に保健だよりを発行します。また職員を対象とし緊急時の対処法等について研修会を実施します。  【成果指標】  ・毎月1回保健だよりを発行します。年に1回程度、職員対象に研修会を実施します。</p>	<p>&lt;保健安全&gt;  ・学校医との連携、生徒の健康状態や課題についての情報交換、および生徒や保護者への情報のフィードバックについては概ね達成できたと思います。  【活動指標】  ・学校生活への順応が心配される生徒の保護者を交えた情報共有、および家庭との連携については目標通り達成できました。目標とした支援についてもほぼ達成できたと思います。  ・生徒の健康に対する意識高揚と情報提供のための保健だよりの発行は目標の回数を達成しました。職員を対象とした研修会の実施も目標を達成しました。  【成果指標】  ・保健だよりの発行、職員対象の研修会の実施は目標を達成しました。</p>
	<p>&lt;生徒指導&gt; 生徒情報を共有しやすい環境にするため、生徒指導室の雰囲気作りに努める。問題行動や事故等が発生した場合は、情報を共有して、学年・系・分掌と連携して指導できる体制作りに努める。</p>	<p>&lt;生徒指導&gt;  学年・系・科・分掌と情報共有できている。問題行動、事故等が発生した場合も迅速に対応できている</p>
	<p>&lt;総務&gt; 報道機関への資料提供  【活動指標】  ・資料の提供については透明性をもって対応に努める。  ・本校の活動がより多くの報道機関に取り上げられるよう、HP・安心メール、Google classroomなど活用し、保護者・地域住民への提供に努める。</p>	<p>年度末及び適宜記入</p>
総勤務時間の縮減	<p>&lt;1 学年&gt;  ① 普段のコミュニケーションを活用して、担任会などの会議を最小限に控える。  ② お互い年休が取りやすいように協力し合う。  ③ 副担任とも連携を取りながらHR活動を行います。</p>	<p>朝の打ち合わせや普段のコミュニケーションを利用して会議をできるかぎり行わないようにした。学年団で仕事を分担することで、年次休暇をとりやすくする工夫をした。副担任とも連携して業務を行い、クラス活動を実施することができた。</p>
	<p>&lt;2 学年&gt;  (1) 学年会は連絡協議程度におさえ、長い時間の会議を行いません。  (2) 総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境を作ります。  (3) 副担任とも連携を取りながらHR活動を分担して行います。</p>	<p>朝の打ち合わせを積極的に活用して学年会等の会議をできる限り行わないようにしている。学年団では、仕事分担をして休みが取りやすい様に工夫している。</p>
	<p>&lt;3 学年&gt;  進路決定の為の情報共有を密に実施します。クラスルームなどの掲示板など利用し最新の情報を提供できるように工夫する。  副担任と連携を取りながら学級運営を円滑にし、幅広く柔軟な学年経営を実施する。</p>	<p>おおむね達成することができた。  テスト期間中など、オンラインを活用することでSHRなどを削減し、総勤務時間の縮減につなげることができた。</p>
	<p>&lt;機械系&gt;  授業や実習方法や内容、さらには機械系内における業務を効率化し、情報を積極的に共有することで、教員の負担を軽減し、勤務時間縮減や「休みやすい」「働きやすい」職場環境を目指します  【活動指標】  機械系関係施設の環境整備、教材・資料の整理と共有、機械系内業務を担当者だけに頼らず分散化し、協力・協働の実践に繋がります  【成果指標】  機械系全教員の総勤務時間削減</p>	<p>特に資格試験の対策およびとりまとめについて効率化し、その成果を来年度以降に活用できる体制を整えた。また、情報を共有しやすい雰囲気や環境づくりを心がけることで、各教員の業務に対しての行き詰まりや負担を共有し、その課題についてよりよい解決に向けた協力体制を築くことができた。各種委員会の構成員は、可能な限り機械系職員に分散することで、業務の集中を避けるよう努力した。</p>
	<p>&lt;電気系&gt;  経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。そして業務の効率化を実現して労力を軽減し、総勤務時間の縮減を目指します。  【活動指標】 電気系職員が業務の効率化と勤務時間の縮減が実感できるよう互いに協力して取り組みます。  【評価指標】 業務の効率化と勤務時間の縮減に対する電気系職員の達成度の向上を目指します。</p>	<p>専門科目におけるそれぞれの得意を活かし、その内容を生徒・教員に還元することは効率化と教員のスキルアップにも役立つ。学習指導要領の前文に記載された事項を実現すべく評価基準・新たな取り組みやこれまでの取り組みのブラッシュアップを図り、生徒だけでなく教員も主体性を持って学習する取り組みができるようになった。</p>



総勤務時間の縮減	<p>&lt;総務部&gt;</p> <p>1. 会議資料の作成などの事務仕事が多いので、職務の遂行のために、全員の協力体制をしく。</p> <p>2. 職務の円滑な運営を実現するため、部内の情報共有を密にする。PC上でのデータファイル等の所在を明確にし、いつどなたが欠勤されようとも、仕事を継続して行えるようにする。</p>	年度末及び適宜記入
	<p>&lt;保健安全部&gt;</p> <p>・保健安全部の分掌業務を公平に分担し特定の職員に負担が偏らないようにします。職員相互の信頼関係を密にし、互いに連携して業務を効率的に遂行します。</p> <p>・業務を計画的に行ない事前の準備を周到にして時間に余裕を持った業務展開をおこない、一時の過重労働が無いよう取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・保健部職員の対話や情報共有を密にし、連携協力して業務に取り組むことで一人ひとりの総勤務時間を縮減します。</p>	<p>&lt;保健安全部&gt;</p> <p>・保健安全部の業務の公平な分担についてはほぼ目標が達成できたと思います。職員相互の信頼関係と連携および業務の効率的な遂行についても概ね達成できたと思います。</p> <p>・業務の計画的な準備、時間に余裕を持った業務展開および過重労働の防止についてもほぼ達成できたと思います。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・保健部職員の対話と情報共有、連携協力、一人ひとりの総勤務時間の縮減についてもほぼ達成できたのではないかと思います。</p>
	<p>&lt;教務部&gt;</p> <p>各系の業務を相互に連携・協力し、職務にかかる時間の削減をはかります。</p> <p>業務の円滑な運営および停滞を避けるために情報共有をはかり、相互にコミュニケーションが取れる雰囲気づくりを目指します。</p> <p>&lt;教務部：図書&gt;</p> <p>利用者情報において、貸出返却処理のバーコードでの管理を徹底し、速やかに対応できるようにします。</p> <p>学校図書館及び学校図書館司書の資質向上を目的とした研修へ積極的に参加し、スムーズな図書館運営を目指します。</p>	<p>&lt;教務部&gt;</p> <p>公開授業、研究授業を実施しました。ICTの活用を含めて授業スキルアップの意見交換をしました。規律ある授業展開を意識し、教員相互に連携に努めました。新学習指導要領の実施にあたり、新しい評価基準の実施と見直しに努めました。</p> <p>&lt;図書&gt;</p> <p>特にタブレットを利用した図書館の授業利用に際して、書籍購入、相互貸借、新聞、インターネットなど情報源を多方面から提供し、レファレンス業務をしっかりと行いました。</p> <p>今年度のデータは下記のとおりでした。</p> <p>受入蔵書 318冊(購入 310冊、寄贈 8冊)</p> <p>貸出統計 824冊(生徒 465冊、教員 359冊)</p> <p>相互貸借 8件(貸出29冊 借受53冊)</p> <p>リクエストによる書籍購入 59件</p> <p>レファレンス相談件数 18件</p> <p>授業による図書館利用件数 21件</p> <p>部活による図書館利用件数 2件</p> <p>(2023/1/10現在)</p>
	<p>&lt;生徒指導&gt;</p> <p>1. できる限り仕事を簡素化します。部の連絡はホワイトボードや普通の会話を利用し、部会の回数、時間を最小限に抑えます。</p> <p>2. 係分担をきちんと行い、特定教員に負担がかからないようにします。</p> <p>3. 互いに抱えている仕事を理解し合い、協力し合える雰囲気を作ります。</p>	<p>&lt;生徒指導&gt;</p> <p>部内の雰囲気も良く、お互いに協力意識があり、個人の負担軽減に繋がっている。また、掲示版を活用し、報連相ができてきているため、会議の時間、回数を最小限に抑えることができてきている。</p>

#### 改善課題

今年度は特に生徒指導やクラブ活動について改革するところが多くあり、生徒指導についてはこれまでの頭髪検査の大きな見直しが見られ、今後の指導の在り方を見直す必要がある。クラブ活動については、時間外労働の短縮を確認するとともに、改めてガイドラインの遵守が必要とされ、勝利への指導と時間の効率について各協会で研修を図る必要がある。

#### 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>入学してくる生徒の「ものづくり」・「工業を学習する」という興味・関心を持っている割合が減少する中で、工業教育に興味関心を持たせてこっちを向かせるかは我々教員側に問われている問題でもある。電気技術者・ITエンジニアを育成するという責務を果たし、ネットワーク技術の進展に伴う新たな学びにも対応し学びにつなげ技術を習得させること、一つ上の国家資格を習得させることもテーマであると考えている。新たなテーマを取り上げ、生徒と教員が共に考えながらゴールを目指し取り組めたので、今後も継続的に共通テーマを考えること、若年者ものづくり競技会や専門学校との連携をしてのプログラム開発等、生徒に還元できることを一つでも多くできるように継続していくことが改善課題である。縦型教育OJTからの脱却も改善課題と考える。</p>
---------------------	---

#### 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>少子化の影響もあり工業高校への関心が低くなりつつある。魅力ある学校として、本校のキャリア教育での強みを前面にアピールしていく必要がある。</p>
学校運営についての改善策	<p>BYOD端末の購入にあたり、保護者負担が大きくなり、学校全体で費用の見直しや削減を目指す。クラブ活動についても、県の指導により県内のすべての学校でこれまでの全員加入制から任意の入部となり。PTAの加入や運営費等の支出に影響が出る可能性がある。</p>